

令和 7 年度 自己点検・自己評価報告書(概要)

学校法人 食糧学院
東京栄養食糧専門学校

大項目	自己点検・自己評価
基準1 教育理念 目的・育人人材像	<p>本校は「専門教育に誇りを持ち、社会から信頼される教育機関を目指すと共に社会から高い評価を得られる学術・技能に優れた人材の育成に努める」ことを教育の理念・目標に掲げ、社会に貢献できる栄養士・管理栄養士の育成に努めている。具体的には「栄養士・管理栄養士が持つ基本的スキルである調理技術や身体状況に見合う献立作成技術の習得、更には栄養指導、栄養教育に不可欠な他人を思いやる豊かな人間性の涵養」を周知しているところである。</p> <p>【改善のための方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会のニーズに対応したカリキュラム編成の実現として下記を取り入れている。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 課題に向き合う力を習得できる授業スタイル 2) AIを活用する側になれるような基礎学習
基準2 学校運営	<p>年度当初に策定した事業計画・予算案に基づき運営している。学校の組織の中で、学院本部、調理校、栄養校の部長以上が出席する学院運営会議があり、学校内では課長、科長以上が出席する栄養校の運営委員会、さらには栄養校の運営委員会から1週間後に栄養校の教職員会議を実施している。先に実施した会議での決定事項等を連絡、伝達し、その他朝、週1回の朝礼を実施し、1週間の行事等の確認、意思の疎通、決定、連絡事項を行っている。</p> <p>【現状と問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ICTツールでの報連相が先行し、見落としが生ずるときがある。 ・ 委員会組織を超えたコミュニケーションにまで至れていない <p>【改善のための方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今以上に、上司部下の垣根を越えた日常的なコミュニケーションを推進する。
基準3 教育活動	<p>職業実践専門課程に相応しいカリキュラムを作成するため、栄養士・管理栄養士のあるべき姿のイメージ像を描き、教育課程編成委員会の提言を尊重すると共に、将来の「就職」も視野に企業・業界団体との連携を図り、企業等が求める人材ニーズを反映させたものとするを心掛けている。</p> <p>【現状と問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 就職を視野に、専門性を高めるためのコース制を導入している。 ・ カリキュラム作成が優先し、学生が追いついてきているかの振り返りが不十分で見落としが生ずるときがある。 <p>【改善のための方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎教育支援(座学・実習)、国家試験対策、栄養士実力認定試験対策等、フォローへの充実を進めている。 ・ 選択コース別の特長を更に鮮明にするためのカリキュラムの再検討。デジタル、AIの知識に長けた人材を育成できる体制づくり。
基準4 教育成果	<p>全ての学生が高い満足度、充実した学校生活を感じて卒業すると共に、卒業生が社会で活躍し貢献することを期待する。</p> <p>【現状と問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 就職希望者に対する就職率、専門分野への就職率を向上させる。 ・ 管理栄養士国家試験合格者を向上させる。 ・ 栄養士実力認定試験において、管理栄養士科のA認定100%、栄養士科のC認定0%の目標が達成できていない。 ・ 各種レシコンテスト、産学連携の出展等に多くの作品を出品している。 <p>【改善のための方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 就職希望者に対する就職率100%、専門分野への就職率90%を目指すため就職指導を徹底していく。 ・ 管理栄養士国家試験が記憶重視型から思考応用力重視型へ移行し難度が上がりつつあるため、よりガイドラインを踏襲したカリキュラム作りを検討していく。 ・ 栄養士実力認定試験の目標達成に向けた対策授業を、関連科目担当者と連携して行っている。 ・ 今後、より多くの学生が諸々の催物に積極的に出品するよう、コンテスト等の情報提供、サポートを行っていく。

<p>基準5 学生支援</p>	<p>学生相談についてはクラス担任、学生支援科、就職・進学指導の体制は就職進路担当を中心に体制づくりがなされている。経済的には公的支援制度の整備とともに、本校独自のシステムも設置されている。</p> <p>【現状と問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年度ごとに学生の雰囲気異なるが、その空気感に対応した就職活動の方法を整えている。 ・ 退学信号が黄色になる前後から、該当者にアプローチしている。 ・ 卒業生の追跡調査と、転職支援について十分に対応できていない。 <p>【改善のための方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学内企業説明会に参加する学生は、企業に対しての興味の有無を見られているので、気をつけなければならない。栄養士・管理栄養士を目指す意欲を喚起し、安心・安全に勉学を励むことができるよう支援体制ならびに施設環境を整えている。 ・ 全教職員で、学生の様子を注意し、小さな変化も見逃さないようにする。 ・ 卒業生の追跡調査の検討と離職者に対する中途採用紹介システムの確立。 ・ 多様化する入学者に対する卒業までの多様な学び方の構築。
<p>基準6 教育環境</p>	<p>常に充実した施設設備・環境のもと、最高水準の職業実践教育を授け学生の想い・夢・希望を叶えていきたい。普通教室以外、臨床栄養学実習室、第1・第2製菓実習室、第1～第5調理実習室、生理学実験室、衛生学実験室、理化学実験室、給食経営管理センター、給食経営管理実習室（HACCP対応）、栄養教育実習室、視聴覚教室、コンピューター実習室、食品加工実習室、健康体力教育センター（多目的スタジオ・トレーニングルーム）、就職（進路）相談室、図書室、学生ホール、ICTルーム、多目的ホールなどを備えている。</p> <p>【現状と問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育費・必要な設備は年度予算を確保し整えている。緊急性のあるものは予算外でも対応している。 ・ 施設を建物として認識すると、昨今の気候変動にあわせて考える時期を迎えているといえる。 ・ 就業理解を深めるための学外実習（必修）、インターシップ（任意）は事前指導含めサポート体制の重要性を感じている。 <p>【改善のための方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ヒト・モノを学校の財産として捉え、丁寧に一つずつ解決している。
<p>基準7 学生の募集と受入</p>	<p>学院本部に学院広報部がある。さらに本校には教員を中心とした広報委員会が組織されており両者が協働一体で学生募集活動を実施している。学院広報部は主に学外での広報活動に従事し、高校訪問や会場ガイダンス等を実施している。一方、学内では学校広報委員会を中心に全教職員をあげてオープンキャンパスをはじめとする学生募集活動を実施している。栄養士・管理栄養士を目指す意欲ある学生は、是非伝統と歴史と実績のある本校で学んで頂きたい。そのためには、本校のアドミッションポリシーを理解し、真摯な態度で勉学に励む事を望むものである。</p> <p>【現状と問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ OCを年間20回数実施に加えて、給食会や個別相談も実施している。給食会は学生が作った給食を食べながら在校生と会話することができ、好評である。 ・ 出入り自由なフェスを数回取り入れ、来校しやすい内容も行っている。 ・ 学校情報の発信ツールとしてSNSと、HPの活用を行っている。 ・ 科目履修生、長期履修生（修業年限2年課程を4年間で履修）、分納制度や就学支援制度の説明を行い、入学不安の払拭に努めている。 ・ 他大学では入学者が集まらないので共学化している所もある。本校も定員数変更の申請をしている最中。 ・ 栄養士のOCテーマとして、『食』『美味しい』だけでいいのか。栄養学的な要素も必要なのか。 <p>【改善のための方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 充実した学生生活と、高い技能の習得を得られる本校であるという自負を教職員は丁寧な対応で表現していく。
<p>基準8 財務</p>	<p>無借金経営であり中期的な財務基盤は安定しているが、校舎等の老朽化により近い将来の建て直しの検討も必要となっている。「充実した教育目標に即した経営基盤の強化」を達成するために、①定員の確保 ②退学率の低下に努力している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和7年度の財務情報は、現在HPで公表中である。 <p>【現状と問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 少子化の加速を念頭に、既卒者や留学生の受け入れ体制の充実も試行錯誤している。 ・ 昨今の物価高を鑑み、予算超過であっても実習等は確保している。
<p>基準9 法令等の遵守</p>	<p>関係法規を基本とし、法令・設置基準等を遵守している。また、ISO 14001に基づき環境保護等に配慮した教育を行っている。法令の中でプライバシーをどこまで守れるかということが重要である。実際にコロナ感染者が学内に発生し、出欠および公欠者の把握についてプライバシーを守りながら、週一回の朝礼またはメールで随時、共有し、学生が完治して戻ってきやすい環境づくりに配慮している。</p> <p>ハラスメント研修を受け、ハラスメント事案が起きないようにしている。学生からの授業アンケートでもハラスメント関連の苦情はみられなかった。</p>
<p>基準10 社会貢献</p>	<p>教職員は、本校の教育資源を社会貢献や地域貢献に活用できるよう自覚を持って行動している。</p>